浦町中だより

令和4年度 第5号
令和4年 8月26日(金)
浦町中学校発行 文責：校長

3年ぶりに行動制限のない夏となりましたが、連日新型コロナウイルス感染症のニュースばかり流れていた記憶が残っています。安全・安心な学校運営のためにニュースやデータとにらめっこの日々は仕方ありませんが、学校休業や行事の中止・延期など、子どもたちの学びが止まるような事態にならなければよいな、と願うばかりです。

そんな中、宮城県仙台育英高校が東北勢初の甲子園優勝のニュースがありました。選手の活躍はもちろん称賛ですが、試合後の須江航監督の優勝インタビューが個人的に胸に染みました。以下に記載します。

「青春って、すごく密なので。でも（行事とか）そういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動してても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で。でも本当にあきらめないでやってくれたこと、でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生のみんなが本当にやってくれて。（中略）目標になるチームがあったから、どんなときでも、あきらめないで暗い中でも走っていけたので。本当に、全ての高校生の努力の賜物が、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。」

苦しく悔しい場面を何度も乗り越えてきたからこその須江監督の率直な言葉だと思います。本校でも現場で日々踏ん張っている職員と生徒がいます。高いハードルであっても諦めずにしっかりと歩みを進めていけるよう2学期も精進してまいります。御支援のほど、宜しくお願いいたします。

当たり前を極める2学期に…『凡事徹底』～始業式校長式辞

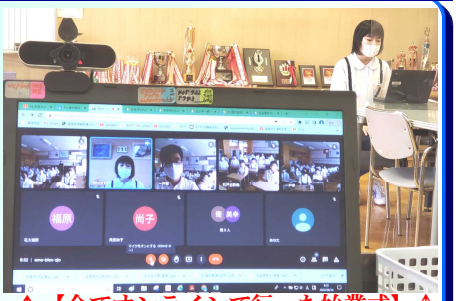
２学期は学習だけでなく、部活動や文化祭、３年生は修学旅行など、皆さんが楽しみにしている行事や活躍場面がいくつも用意されています。それらは全て、仲間と協働したり全員で磨き合ったりすることで成果が表れます。コロナ禍だからこそ、各自がやるべきことを地道にやり続けることで、高い効果を上げてほしいと思います。

この２学期、全員に目指してほしいのは『凡事徹底』です。「凡事徹底」とは、何でもないような当たり前のことをしっかりと行うこと、または、当たり前のことを極めて他人が真似できないほど徹底的にやること、を意味する四字熟語です。当たり前のことを当たり前にやっても、当たり前の結果しか出せません。それを継続して徹底的にこだわることで、人とは違う大きな結果を引き出せるのだと思います。

特に意識してほしいのは、家庭学習（自学）、挨拶・会釈、掃除・整理整頓の３つです。現代社会は、目に見えるところばかりを飾り立てたり、短期的な成果ばかりを追い求め評価されたりする風潮がありますが、目に見えないところや目立たないところを磨き上げることは、これからの人生を生き抜く上でとても大切なことだと考えます。

２学期、暦上では４ヶ月ありますが、登校する日数は８３日です。力を付けたい、成長したいと願うなら、今日から行動しなければなりません。後悔しないよう、そして徹底したコロナ感染対策とともに、皆さんの確実な一歩を期待しています。

「夏休みの反省と2学期の目標」（抜粋）～3年2組 小野めばえ さん



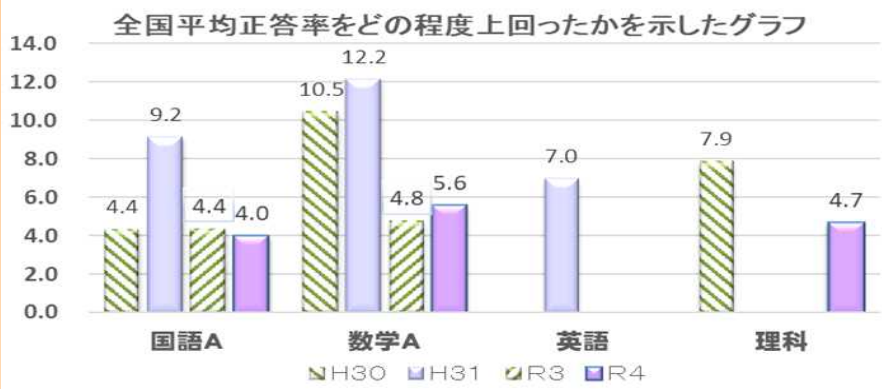
↑【全てオンラインで行った始業式】↑

夏休みに頑張ったと思う点が２つあります。１つ目は受検に向けた質のよい勉強ができたことです。あとで見直しても勉強になるノートづくりを工夫しました。また、隙間時間を利用して短い時間でも集中して勉強できました。２つ目は、勉強と部活動の切替がしっかりできたことです。最後の中体連で悔いを残さないよう、また、自分の力がどこまで通用するのか挑戦したいという思いから、東北大会に向けて全力で取り組みました。夏休み後半は、受検生として志望校合格を目指し、気持ちを切り替えて勉強しました。

２学期に向けての目標は、１ 「分からない」をつくらないこと、２ 隙間時間を更にうまく使うこと、の２つです。１つ目は、苦手意識をなくすために、分からない問題を先生や友達に聞いて、納得しながら問題に取り組みます。粘り強くやり通すことで、きっと苦手を克服できると思います。２つ目は、わずかな時間でも参考書や単語帳を見て、忘れやすい教科の復習に力を入れます。大幅な点数アップは期待できないかも知れませんが、「あと数点足りなかった」と後悔したくはないので、地道な努力を続けていきます。その他、２学期は大きな学校行事がたくさんあります。日常生活だけでなく、最後の学校行事へも精一杯取り組んでいきます。（※一部校長加筆）

本校の全国学力・学習状況調査結果と改善のための取組について

下のグラフは、毎年４月に全国の中学３年生が受検する標記調査結果の、本校４年間の推移です。本校は、国語・数学・理科のいずれも全国平均を超えていますが、過去のデータと比べると決して満足いく結果ではありません。その原因の一つとして、記述式解答を求める問題における無答率の多さがあります。名称や言葉を答えさせる一問一答での選択式・短答式や、思考する内容が単純な問題には強く正答率も高いのですが、全ての教科に共通して、説明や考察を条件に沿って書く記述式の解答では、極端に正答率が下がったり無答が増えたりする傾向にあります。昨年度の全国や青森県の学習調査でも同様の結果が出ていましたが、改善には至っていません。知識・理解では一定の成果を上げてはいますが、時間や手間のかかる問いには手を付けない生徒を減らしていかなければなりません。



課題１ ≪記述式解答を求める問いにおける本校の無答率≫ ※(　)内は選択式、短答式の解答における無答率

国語１２.2%（２.3%）　数学２２.4%（４.0%）　理科１１.6%（１.5%）

対策１ ①記述式の問題に多く取り組ませ、テスト問題の回答方式にも工夫を凝らす。
②無解答率の高い問題を抽出し、できるまで繰り返しドリルすることで確実性を高める。

課題２ ≪思考・判断・表現を評価の観点とする問いにおける本校の平均正答率≫

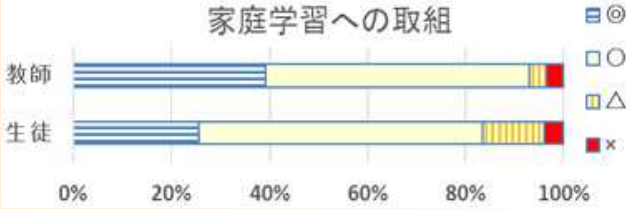
国語６６.9%（63.2/61.9/62.3）　数学４１.6%（42.1/34.3/36.2）　理科５４.5%（47.4/48.7/49.6）

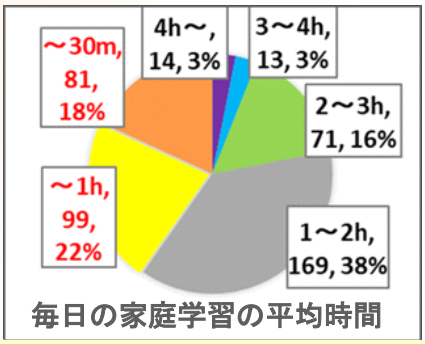
いずれも本県や全国を上回る結果となりましたが、数学科では本市の平均を若干下回っています。学校・生徒質問紙の集計結果を見ると、本県や全国と比べて課題と思われる項目は「思考・判断・表現」に関わる内容が多く挙げられています。※（　）内は青森市／青森県／全国の平均正答率

対策２ ①生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れる。
②生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、生徒に配備されたＩＣＴ機器の使用を推進する。

課題３ ≪家庭学習時間の減少≫

毎日の家庭学習の平均時間は、昨年度皆無だった30分以下が18％に増加。１時間以下の22％と合わせると4割で、中学生の家庭学習時間としてはかなり不足しており、早急に改善すべき課題です。家庭学習への取組の自己評価からも、自身の取組姿勢をよしとしていない様子がうかがえます。





本校では学校課題の一つに「学力差拡大の解消」を挙げており、重点指導項目に『学修*保障』を掲げています。これは、昨年度の各種調査や生徒アンケートの結果から、家庭における自学自習への取組が弱いことの結果を受けたものです。しかしながら、今年度も改善が図られたとは言い難く、逆に家庭学習の時間がより少なくなっていることが、今回の調査から明らかとなりました。

「個別最適な学び」の実現に向けて、授業はもとより、授業以外の場面での学習意欲の喚起は、本校の学力基盤づくりの鍵になると考えます。デジタルドリルの活用方法や学習履歴（スタディ・ログ）の活用を通じて、誰一人取り残さない学びの実現を図っていきます。

*学修:授業だけでなく、自学の習慣を付け、予習や復習まで自ら進んで行うことにより、より深く学問を理解し身に付けること。

夏休み中に行われた各種大会等の表彰の記録は、後日別紙にて配付いたします。今しばらくお待ちください。

９月の主な行事予定

1日(木) 引落日②、職業講話(5・6校時)
2日(金) ３年模擬テスト②
6日(火) ３年修学旅行(～9日)
9日(金) １年キャリア体験学習
12日(月) 生徒会役員選挙告示
14日(水) 全校防災訓練②、１年避難所開設体験
16日(金) 授業参観日②(1～4校時)
市中体連秋季大会壮行式(6校時)
17日(土) 市中体連秋季大会～19日
３年模擬テスト③～18日
19日(月) 授業日［敬老の日］
20日(火) 17日の振替休日
22日(木) 中体連報告会
25日(日) テスト前部活動停止期間～27日
26日(月) 9/18の振替休日、~~引落日①~~(変更予定)
27日(火) 9/19の代休日
28日(水) 中間テスト、衣替え移行期間～10/7
30日(金) 生徒会立会演説会・選挙(5・6校時)